

第61回岐阜県消防操法大会開催！

〈揖斐川町消防団（大深分団）が健闘！〉

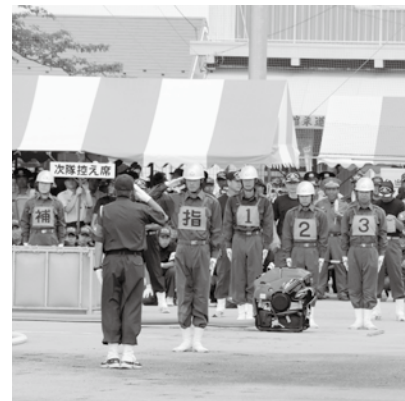
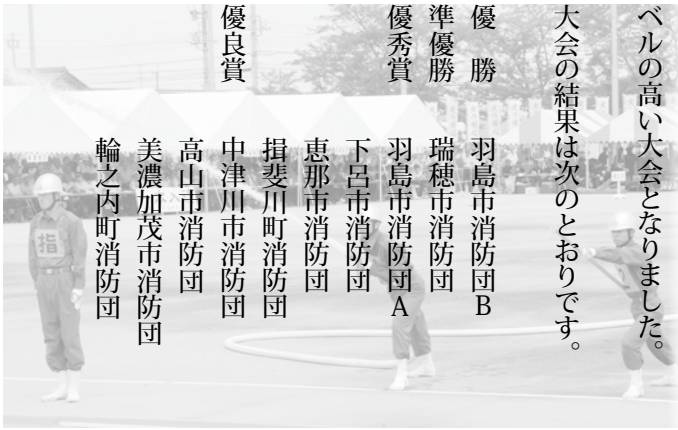
8月5日（日）、真夏の太陽が照りつける晴天の下、羽島市運動公園（羽島市）で、「消防感謝祭」第61回岐阜県消防操法大会が開催され、揖斐郡の代表として揖斐川町消防団（大深分団）が出場しました。

大会には県内の46消防団から各地区の大会で選ばれた28隊140人が出場し、関係者など約6000人が来場しました。

競技種目は小型ポンプ操法で、火技術の正確さや早さを競い、どの隊も訓練の成果を存分に発揮したレベルの高い大会となりました。

大会の結果は次のとおりです。

- 優勝 羽島市消防団B
- 準優勝 瑞穂市消防団
- 優秀賞 羽島市消防団A
- 下呂市消防団
- 恵那市消防団
- 揖斐川町消防団
- 中津川市消防団
- 高山市消防団
- 美濃加茂市消防団
- 輪之内町消防団
- 優良賞



▲訓練の成果を発揮しました



▲団員の結束が好成績に結びつきました

花と緑のまつり2012開催

6月9日（土）から10日（日）の2日間にわたって「いび花と緑のまつり2012」が、揖斐川町中央公民館で開催されました。

この催しは、花や緑を通して地域住民との交流や住みよい町づくりを進めることを目的としています。

会場内には、花木の寄せ植えや色鮮やかなサツキ、ひょうたんの置物など約300点の作品が展示されました。

駐車場では、寄せ植え教室のほか、花木に関する相談コーナー、物産展などが行われ、多くの皆さんで賑わいました。



▲寄せ植え教室の様子

揖斐地区 高齢者交通安全大学校

7月9日（月）、「揖斐地区高齢者交通安全大学校」の開校式が揖斐川町役場で行われました。この大学校は高齢者の事故防止と指導者の育成が目的で、1年を通して体験・実践を交えながら交通安全について学びます。

開校式で、学長の町老人クラブ連合会高橋会長は、「皆さんに交通安全の知識を深めてもらい、自分の運転能力を知り、安全運転に心がけましょう。」とあいさつしました。

年間で、運転者適性診断や、ヒヤリ・ハット地図作成で危険情報の共有、自動車学校と協力してのドライビングスクールなどが開催される予定です。



▲開校式であいさつする高橋会長



▲買い物客に交通安全を呼びかける園児たち

7月13日(金)、夏の交通安全県民運動(7月11日～20日)に合わせて幼児園児がちびっ子警察官に委嘱され、交通安全街頭啓発が行われました。揖斐郡内3町からちびっ子警察官に委嘱された幼児園児の代表園児6名がパトカー3台に分乗し、揖斐郡内のスーパ―などで交通安全啓発グッズを配布して、交通安全を呼びかけました。

揖斐川町では、おじま幼児園の5歳児29人がバロー揖斐川店で啓発活動を実施。「交通事故に気をつけてね。」「交通安全お願いします。」などと買い物客に事故防止を呼びかけました。

夏の交通安全県民運動街頭啓発

「ちびっ子警察官が大活躍」



▲命の手紙を手渡しました

7月17日(火)、夏の交通安全県民運動の一環で、春日小学校の全校児童40人が地域の高齢者に交通安全を呼びかける「命の手紙手渡し作戦」を行いました。

春日小学校は、平成5年11月から無事故を続けており、10月には、無事故7000日を達成する予定です。

そこで、交通安全意識をより一層高め、地域ぐるみで交通安全に取り組むために、祖父母らに手紙を書いて渡すことにしました。

手紙を受け取った方は「お互いに声を掛け合って気をつけていきます。」と話していました。

高齢者の交通安全を啓発

「命の手紙手渡し作戦」



▲宗宮町長より派遣認定証を受け取る児童

7月18日(水)、揖斐川町役場で小学生県外研修派遣事業の認定証交付式が行われました。

今年度の研修に参加する児童は、町内小学生20人で、研修先は、友好都市提携を結んでいる北海道芽室町と地域に開かれたダム全国連絡協議会などで交流を深めている高知県宿毛市です。

児童たちは、北海道の農業や高知県の漁業などを体験して、現地の人々と交流を深めます。

派遣団の児童は、「北海道の大規模な農業の機械を見たいです。」「初めて訪れる海でみんなと協力して学びたいです。」などと抱負を述べました。

小学生県外研修派遣認定式

「農業体験・漁業体験で交流」



▲暑さに負けず町を盛り上げます

揖斐川町商工会女性部が、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会のPRと節電の呼びかけ、町内の観光資源写真などでデザインされた「うちわ」300本を作成しました。

この取り組みは、商工会女性部が毎年行なっている店先装飾事業の一環で、部員220人の店舗などに配布されました。

市田セツ子部長は、「夏の暑さにも負けず、町が一体となつてがんばりたい。ぎふ清流国体・ぎふ清流大会では、おもてなしの心で成功に近づきたいという思いを込めました。」と話しました。

商工会女性部店先装飾事業

「国体&節電PRうちわ」

夜叉ヶ池伝説道中まつり

〜伝説の龍神が舞う〜

夜叉ヶ池伝説道中まつりが、7月21日(土)遊らんど坂内特設会場で行われ、家族連れなど、およそ2000人が集まりました。

このまつりは、約1200年前から伝わる夜叉ヶ池伝説を再現する創作音楽劇をメインイベントとして、ステージでは、よさこい、沖繩三線、太鼓演奏などが行われ、訪れた皆さんを楽しませていました。

夜叉ヶ池伝説は、美濃の国神戸(現在の神戸町)の郡司が、恵みの雨の返礼に娘を夜叉ヶ池にすむ龍神に嫁がせたという話です。創作音楽劇には、坂内小中学校の児童生徒や地元住民ら総勢60人が出演し、夏の夜に幻想的な伝説が蘇りました。



▲創作音楽劇での龍神と夜叉姫

岐阜県交通少年団自転車安全大会

〜春日小学校児童が出場〜

7月25日(水)、ヒマラヤアリーナ(岐阜市)で「岐阜県交通少年団自転車安全大会」が開催され、揖斐郡の小学校を代表して春日小学校の代表児童6名が参加しました。

大会には、県内から17校が出場し、交差点や道路などの簡単なコースを組み合わせた安全走行、S字走行やジグザグ走行などの難関コースの技能走行、筆記テストの3種目で競いました。

どの選手も日頃の練習の成果を存分に発揮したレベルの高い大会となりました。出場した児童は「精一杯がんばったけど、すごく緊張しました。」と話していました。



▲技能走行の難易度が高いジグザグ走行

北海道芽室町と学校間交流

〜互いに知り合い深まる友情〜

揖斐川町と友好都市提携を結んでいる北海道芽室町の小学生14名が、7月30日(月)から8月2日(木)にかけて、揖斐川町を訪れ、7月31日(火)には、お茶摘み体験や染物体験を行い、8月1日(水)には、北方小学校の5・6年生40名と交流をしました。

揖斐川健康広場アリーナで行われた交流会では、北方踊りを披露し、芽室町の児童もシナイや太鼓を着けて踊りを体験したり、お囃子の横笛にも挑戦しました。



▲芽室町の児童と交流を深めました

樽見鉄道国体開催記念列車

揖斐川町ヘッドマーク披露式

8月1日(水)、樽見鉄道谷汲駅(谷汲長瀬)で、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会の開催を記念して作製した、「揖斐川町オリジナルヘッドマーク」の披露贈呈式が行われました。直径90センチメートルのヘッドマークには、谷汲山華厳寺や揖斐川町に関するキャラクターが描かれました。

披露式には、たにぐみ幼児園児や関係者ら約100人が出席。ヘッドマークを付けた列車は、10月下旬まで運行されます。



▲ヘッドマークを付けて出発する列車とヘッドマーク(右)

第13回久瀬花き品評会開催

8月2日(木) 久瀬公民館で、久瀬花き生産組合主催による「第13回久瀬花き品評会」が開催されました。小菊53点、しきみ27点が出品され、色や形、つや、商品性などを基準に審査をしました。

岐阜県知事賞は、小菊を出品された、村瀬佐二さんが受賞されました。そのほかの入賞者は次のとおりです。

■切花の部(小菊)

金賞(町長賞) 河合 三郎さん

銀賞(岐阜生花市場協同組合理事長賞)

銅賞(いび川農業協同組合長賞)

安藤みつ子さん

長屋 薫さん

山本勘三郎さん

■枝物の部(しきみ)

金賞(議長賞) 高橋 努さん

銀賞(揖斐農林事務所長賞)

村瀬 佐一さん

銅賞(久瀬花き生産組合長賞)

安藤 和子さん

高橋 時江さん

奨励賞



▲品評会の様子

いびがわの祭り開催

〜4000発の花火が夜空を彩る〜

8月5日(日)、いびがわの祭りが揖斐川河川敷、揖斐川町役場から前島橋周辺を中心に開催され、多くの人で賑わいました。

メインイベントの花火では、皆さんの願いを込めたメッセージが貼られた花火玉、約4000発が夜空に打ち上げられたほか、「成功させよう!ぎふ清流国体・大会」の文字仕掛け花火も披露され、訪れた多くの皆さんを魅了していました。

また、恒例となっている「民謡流しおどり」や、揖斐川町商工会主催によるバザーなどのイベントが行われました。



▲4,000発の花火が夜空を彩りました



▲民謡流しおどり

中学生議会開会

〜誇りと自覚をもって〜

8月6日(月)、揖斐川町役場議場で、中学生議会が行われ、町内6校から中学生議員19人が参加しました。

今回の中学生議会の議長は、揖斐川中学校の増田勇哉さんで、議会では、郷土・学校の誇り、文化・芸術の振興に関わる提言、揖斐川町をより発展させるための町への質問や提言がありました。

閉会の挨拶で、議長を務めた増田さんは、「近い将来、揖斐川町を担うこととなりますが、今日の経験を忘れることなく、揖斐川町民として誇りと自覚をもって生きていきたいです。」と話しました。



▲学校ごとの提言の様子